

目標および成果指標の設定 記入様式

活動団体名： かみかつ茅葺き学校

上位関連計画にみる地域の将来  
 ○パリ協定における日本の目標：2013年度比で2030年までに26%削減、さらに2050年までに80%削減  
 ○第5次エネルギー基本計画における、2030年に実現を目指す再エネの電源構成比率：22～24%、2030年に実現を目指す実質エネルギー効率（最終エネルギー消費量／実質GDP）35%減。  
 ○現在の人口：1,452人、将来：1,008人（2030年）、643人（2045年）（日本の地域別将来推計人口（平成30年推計））  
 ○上勝町総合戦略（2020）に示された将来目標 消滅集落の数 現状：0→目標：0（2025年）、新規起業数目標：6（2025年）  
 ○上勝町総合計画（2015）の将来目標 集落世帯数目標：690世帯（2019）→実績：648世帯（2019）…総合計画策定中（2020）

②具体的な取組  
 ※誰が何をするのか、主なものをお書きください。  
 ●かみかつ茅葺き学校の実施：親子向け体験プログラム、匠向け仕事体験プログラム  
 ●協働の仲間づくり（八重地応援隊の募集）：八重地集落の耕作支援、年中行事の支援など集落の日常に係る応援隊を募集する。  
 ●協働の仲間づくり（ビジネスパートナーの募集）：茅葺き民家を活用した、集落ビジネスの実施主体を募集する。  
 そのほか、茅葺き学校に係る多様な形態の協働の仲間を受け入れる。  
 ●ゼロ ウェイストタウン上勝への仲間入り：上勝町内のハブ拠点との連携によるパッケージプログラムの実施。

①ありたい未来  
 山のめぐみを活用した、集落の豊かな暮らしの持続  
 → 中山間地域にみられる、山のめぐみを活用した、伝統的な暮らしは集落にあります。集落の暮らしは、家そのものを維持するだけでなく、暮らしに必要な水や食料、燃料を提供してくれる山、川、農地の管理に関わる仕事（＝営み）があり、それによって支えられる豊かな生態系がありました。また、集落の暮らしには、身近にある再生可能な材料でつくる知恵と技術があり、違う側面では、人と人が助け合う相互扶助がありました。しかし、集落の形は残っているものの、これらの要素は、維持する努力をしないと今にもなくなりそうな危機に直面しています。かみかつ茅葺き学校では、山のめぐみを活用した、伝統的な暮らしを体験という形で維持、継承し、里地里山の豊かな生態系の再生と、集落内外の新しい仲間づくりによって集落の営みが支えられる、山のめぐみを活用した、豊かな暮らしの持続を目的としています。

③短期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2020年度末)	実績値 (2021年度末)	単位
環境	集落の耕作支援	耕作放棄地の再生	0	10	26	a
		耕作支援	2	2	25	a
	山のめぐみ活用	茅の収穫	0	500	229	束
		薪 炭の使用量	10	20	70	k g
経済	収益活動準備	有料体験プログラム	0	3	6	個
	収益の獲得	貸館利用日数	0	10	12	日
	施設の充実	貸館利用モニター受け入れ	0	3	1	組
	情報発信	FBページ「いいね！」数	195	300	417	いい
		公式LINE友達数	7	20	20	人
社会	地域外支援	八重地応援隊数	0	2	8	組
	空き家活用	体験居住施設候補獲得	0	1	0	軒
	人の流れ	茅葺き民家のべ利用者数(町外)	28	100	140	人
	人の流れ	茅葺き民家のべ利用者数(町内)	4	50	54	人

④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2020年度末)	目標年度 2030-2050年度	目標値	単位
環境	里地 里山の維持 再生	耕作放棄地の再生	0	10	2030年度	20	a
		耕作支援	2	2	2030年度	10	a
	山のめぐみ活用	茅の収穫	0	500	2030年度	1,000	束
		薪 炭の使用量	10	20	2030年度	100	k g
経済	収益の獲得	体験メニュー収入	0	0	2030年度	50	万円
	収益の獲得	貸館収入	0	5	2030年度	100	万円
	収益の獲得	民泊収入	0	0	2030年度	100	万円
	財源の充実	寄付金額	0	0	2030年度	100	万円
	担い手確保	恒常的事務局員	0	1	2030年度	2	人
社会	地域外支援	八重地応援隊数	0	2	2030年度	10	組
	空き家活用	体験居住施設	0	1	2030年度	2	軒
	人の流れ	茅葺き民家利用者数(町外)	0	100	2030年度	2,000	人
	人の流れ	茅葺き民家利用者数(町内)	0	50	2030年度	300	人
	情報発信	FBページ「いいね！」数	50	200	2030年度	500	数
		公式LINE友達数	7	20	2030年度	200	人

⑤短期指標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

●環境  
 高齢化による耕作放棄地の再生に取り組み、集落の地域資源である棚田景観を維持する。茅葺き学校における体験プログラムの利用を増やすことで、地域産の茅、薪、炭の利用量が増える。今後、茅葺き学校で、里山の再生の取り組みなどを検討し、山の生態系サービスの向上を目指したい。

●経済  
 山のめぐみを活用し、収益を獲得するため、まずは体験プログラムの質の向上、価格設定などの整備を充実させ、商品として成立できるよう取り組む。また、貸館も、利用者の満足度を上げるための、ニーズ調査や施設の充実を図る。同時進行で、上勝町内のハブ拠点との連携活動を進め、発信力のあるハブ拠点での体験プログラムとして売り出し、顧客を獲得する。若者に発信力のある、インフルエンサーの活用も検討し、多様な主体による発信を目指したい。茅葺き民家の施設の充実、周辺の環境整備などを進めるための寄付金の獲得を目指したい。

●社会  
 八重地応援隊の支援を得て、茅葺き民家の維持、茅葺き学校の活動の継続、集落活動の支援を行う。人の流れを受け入れるための、体験居住施設を整備するため、空き家活用を進める。

※環境 経済 社会がどのように関係し合い、相互に高まっていくのか具体的にお書きください